

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教育課程と保育の 計画・評価 ナンバリング：2301	教員の免許状／保育士資格 取得のための必修科目	単位数：2単位 （半期）講義	担当教員名：片口 桂 担当形態：単独
科目／系列	教育の基礎的理解に関する科目／保育の内容・方法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等 ／教科目	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ／保育の計画と評価		
授業の到達目標及びテーマ 1. 保育・教育課程の意義や編成方法を理解できる。 2. 乳幼児一人一人の発達や生活の実情を踏まえ、柔軟に具体的な指導計画を作成できる。 3. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、自身の視点で計画を評価・省察できる。			
授業の概要 保育・教育課程の意義や必要性を理解し、幼稚園・保育所・認定こども園における保育者としての役割を考察する。指導計画は責任実習において不可欠であり、将来、保育者として実践することを念頭に、乳幼児の発達・生活を踏まえ、環境構成・援助等、内容と方法を具体的に作成する。実際に立てた指導計画に基づき、グループでマイクロティーチングを行い、保育を客観的に評価する視野を養う。更に、指導計画を適切に修正していくカリキュラム・マネジメントの意義を実践的に学んでいく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション ー授業の進め方の説明、保育・教育課程とは何かー 第2回：保育・教育課程の基本 ー法令（幼稚園教育要領、保育所保育指針等）から読み解くー 第3回：保育・教育課程の歴史的変遷 ー保育所保育指針・幼稚園教育要領の改訂の流れと教育観ー 第4回：幼稚園・保育所・認定こども園の理解 ー保育・教育課程の体系化、指導計画の理解ー 第5回：教育課程・全体的な計画と指導計画 ーそれぞれの教育課程と指導計画の実際ー 第6回：短期の指導計画 ー週案と日案の編成方法と具体的事例ー 第7回：部分指導案の編成方法 ー部分指導案の各観点の記載方法と具体的事例ー 第8回：年齢別の部分指導案の編成：乳児 ー乳児の部分指導案の配慮と留意点および作成ー 第9回：年齢別の部分指導案の編成：幼児 ー幼児の部分指導案の配慮と留意点および作成ー 第10回：保育評価の基礎理解 ー保育評価の種類、保育所児童保育要録と幼稚園幼児指導要録、PDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントー 第11回：マイクロティーチングの準備 ー各班で模擬保育のテーマ設定および部分指導案の作成ー 第12回：マイクロティーチングの実施（1回目） ー模擬保育の実践と反省、修正指導案の編成ー 第13回：マイクロティーチングの実施（2回目） ー1回目の修正指導案に基づき、再度、模擬保育の実践と反省ー 第14回：マイクロティーチングの成果発表 ーグループの成果発表と全体討議ー 第15回：授業のまとめ ー学習の振り返り、保育・教育課程の課題と展望ー 定期試験：筆記		授業時間外の学習 <ul style="list-style-type: none"> 教科書を熟読して授業に臨み、授業後は授業内容や自分の考えをノートにまとめて整理しておく。 第8・9回目は、各自が考えた制作やレクリエーションの部分指導案を作成する。そのため、図書館やインターネットなどを活用して、事前に資料を収集しておくこと。 第11～第13回目は、円滑な保育実践が行えるように、各グループで討議を重ね、計画的に教材準備や模擬保育の練習を進めること。 予習・復習には1～2時間程度の時間が必要である。	

<p>授業の方法：教科書や配布プリントに基づいて、講義、討論、グループワークを行う。模擬保育の準備の中で、図書館やICTを活用し、自主的に課題を遂行する。課題にコメントを入れて返却する。</p>			
<p>テキスト 『0～6歳 心の育ちと対話する保育の本』加藤繁美著 学研 『教育課程・保育の計画と評価』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 萌文書林</p>			
<p>参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領』（最新版）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（最新版） 『保育所保育指針』（最新版）</p>			
<p>学生に対する評価 定期試験の成績（50%）、課題（30%）、授業参画度等（20%）。ルーブリックを活用し総合的に評価する。</p>			
<p>履修上の注意 教育・保育課程を編成し指導計画を作成することは、教育実践における道しるべとして重要な意味をもつ。自身が保育者として実践することを見据え、積極的に講義に参加して欲しい。</p>			
実務経験の有無	有	実務経験	元保育園園長
<p>実務経験を活かした教育内容 保育所での保育経験を活かし、保育現場の実態に即した授業を行う。</p>			